

小児・思春期の手術適応と手術法



減量・代謝改善手術のための包括的な肥満症治療ガイドライン2024



監修：「減量・代謝改善手術のための包括的な肥満症治療ガイドライン2024」作成委員会
編纂：日本肥満症治療学会

Statements

1. 小児・思春期肥満症に対する減量・代謝改善手術の適応年齢は、原則として13歳以上とする。
Grade B Level III
2. 最終身長に達している（身長伸びが停止している）13歳以上の小児・思春期肥満症に対する減量・代謝改善手術の適応は、成人肥満症に対する適用に準じる。ただし、内科的治療の観察期間は1年間とする。
Grade B Level III
3. 最終身長に達していない（身長伸びが停止していない）13歳以上の小児・思春期肥満症に対しては、受診時に、肥満度 $\geq +85\%$ もしくはBMI ≥ 35 以上の著しい高度肥満で、専門医による1年以上の内科的治療でも肥満が改善しない場合、減量・代謝改善手術を考慮する。
Grade B Level III
4. 最終身長に達していない13歳以上の小児・思春期肥満症に対しては、受診時に、 $+60\% \leq$ 肥満度 $< +85\%$ もしくは $32 \leq$ BMI < 35 の高度肥満で、2型糖尿病、高血圧、脂質異常症、SASのいずれかを合併し、1年以上の内科的治療でもコントロール不良の2型糖尿病を合併している場合、あるいは高血圧、脂質異常症、SAS、NASHを含めたNAFLDのうち2つ以上を合併している場合に、減量・代謝改善手術を考慮する。
Grade B Level III

小児・思春期の高度肥満症に対する術式は、スリーブとスリーブ（バイパス術を伴うもの）が保険診療として行えます。

またOAGBという手術は、以下に該当する方には自費診療で行うことを検討中です。

- 胃癌のリスクが低い方（胃癌の家系ではない、胃潰瘍がない、ピロリ菌が陰性など）
- 胃を切って取り出されるのに抵抗が強い
- 将来の栄養障害が不安で、問題がある場合には元に戻してほしい

HP上の [術式を詳しく知る](#) もご参照ください

小児・思春期
13歳以上

減量・代謝改善手術のための包括的な肥満症治療ガイドライン2024に準ずる